

せが多い。また、作品や資料を保存するうえで、生物被害を受けないような適正な保存環境にするための相談もある。

現地を見て詳しい状況を把握しないと対応が難しいと考えられる場合は、出張して調査のうえ指導助言を実施した。そのほか、先方の担当者に状況がわかる資料をもってきてもらい、対面で相談を受ける場合と、資料を郵送や、メールなどであらかじめ送付してもらい、詳しい状況を確認したうえで、電話で相談を受ける場合がある。

## 保存担当学芸員研修 (⑤保修10-13-3/5)

### 1. 保存担当学芸員研修

保存担当学芸員研修日程：2013（平成25）年7月8日（月）～19日（金）、参加者数：30名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的変化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984（昭和59）年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は700人を超え、各地で資料保存の重責を担っている。平成25年度は、30回目となる本研修を2週間実施した。

7月8日（月）

岡田健「文化財保存 概論」  
佐野千絵「保存環境 各論－文化財の材質・構造－」  
犬塚将英「保存環境 各論・実習－温湿度－」

7月9日（火）

木川りか「生物被害 概論」  
木川りか「生物被害 各論－文化財害虫－」  
佐藤嘉則「生物被害 各論－カビ－」  
小峰幸夫（文化財虫害研究所）・木川りか「生物被害 実習－文化財害虫同定－」

7月10日（水）

佐野千絵「保存環境 各論－室内汚染－」  
早川泰弘「保存環境 各論－大気汚染－」  
吉田直人「保存環境 実習－室内汚染の測定法－」  
吉田直人「保存環境 各論－光と照明－」  
地主智彦（文化庁）「保存環境 各論－文化財公開施設の設計－」

7月11日（木）

東京国立博物館保存修復課「博物館の省エネに関するディスカッション」

7月12日（金）

犬塚将英「温湿度実習 解説」  
三浦定俊「保存環境 各論－防災・防犯－」  
ケーススタディテーマ打合せ

7月16日（火）

「環境調査実習－ケーススタディー」（於：新宿区立新宿歴史博物館）

7月17日(水)

山本記子(国宝修理装飾師連盟)「劣化と保存 各論-日本画-」  
 早川典子「劣化と保存 各論-修復材料-」  
 朽津信明「劣化と保存 各論-屋外資料-」  
 中山俊介「劣化と保存 各論-近代文化財-」  
 坂本雅美(紙本保存修復家)「劣化と保存 各論-紙-」

7月18日(木)

山口孝子(東京都写真美術館)「劣化と保存 各論-写真-」  
 木島隆康(東京藝術大学)「劣化と保存 各論-油彩画-」  
 ケーススタディ発表

7月19日(金)

北野信彦「劣化と保存 各論-民俗資料-」  
 北野信彦「劣化と保存 各論-考古資料-」

研修参加者：安藤里恵、上羽真弓、内山侑子、遠藤亮平、大木香奈、尾上仁美、岡本治代、奥村展宏、今野慶信、斎木涼子、佐藤由美加、澤田正明、志田理子、渋谷一成、高梨真行、高橋佳代、瀧朝子、竹上早奈恵、田中洋一、千枝大志、中安真理、根本亮子、弘中智子、松岡未紗、水野哲雄、森元律、山口真有香、山村恭子、山本友紀、渡邊光恵

所属：下関市立長府博物館、茅ヶ崎市美術館、館山市立博物館、岩手県立美術館、岐阜県美術館、佐野美術館、大和文華館、徳川ミュージアム、広島平和記念資料館、皇學館大学佐川記念神道博物館、香美市立美術館、高野山霊宝館、堺市博物館、滋賀県立近代美術館、宗教法人長谷寺、小山市立博物館、新宿区立新宿歴史博物館、鳥取市歴史博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、東京都庭園美術館、徳島県立博物館、板橋区立美術館、富山県立近代美術館、福岡市経済観光文化局文化財部文化財保護課、福島県文化財センター白河館、兵庫県立美術館王子分館横尾忠則現代美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、北海道立帯広美術館、奈良国立博物館、文化庁文化財部美術学芸課

### 3. 資料保存地域研修

博物館・美術館などの文化財公開施設における資料保存は、保存を担当する学芸員の力だけによってなされるものではない。学芸員以外の館長、事務職や警備員、監視員、空調機器の管理・保守作業員など、博物館の様々な業務に携わる多くの人々が共同で行うものである。本研修は文化財保護に関する知識を、文化財公開施設に勤務するできるだけ多くの職員に理解してもらうため、各地の博物館協議会などの協力を得て開催するものである。

[第18回] 日程：2013年12月11日(水)～12日(木) 会場：山梨県立博物館

共催：ミュージアム甲斐ネットワーク、参加者：41名

プログラム・講師

佐野千絵「保存環境総論」  
 吉田直人「保存環境各論 温湿度」  
 佐野千絵「保存環境各論 空気環境」  
 吉田直人「保存環境各論 光・照明」  
 佐藤嘉則「生物被害」

北野信彦「民俗、考古資料の取り扱いに関する実践的な対応方法」

[第19回] 日程：2014年2月6日(木)～7日(金) 会場：大分県消費生活・男女共同参画プラザ

共催：大分県企画振興部県立美術館推進局、大分県教育委員会文化課、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団、参加者：83名

プログラム・講師

⑤研究指導・研修等 Area22,23

佐野千絵「保存環境総論」  
吉田直人「保存環境各論 温湿度」  
佐野千絵「保存環境各論 空気環境」  
吉田直人「保存環境各論 光・照明」  
佐藤嘉則「生物被害」

プログラム・講師

佐野千絵「保存環境 総論」  
吉田直人「保存環境各論 温湿度」  
佐野千絵「保存環境各論 空気環境」  
吉田直人「保存環境各論 光・照明」  
佐藤嘉則「生物被害」

## 連携大学院教育 (⑤共)

### 東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

1995（平成7）年4月より東京藝術大学と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と、保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成り、各講座3名ずつの研究所所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

(1) 開設講座と連携教員

保存環境学講座

連携教授 佐野千絵（保存科学研究室長）  
連携教授 木川りか（生物科学研究室長）  
連携准教授 朽津信明（修復材料研究室長）

修復材料学講座

連携教授 中山俊介（近代文化遺産研究室長）  
連携教授 北野信彦（伝統技術研究室長）  
連携准教授 早川典子（主任研究員）  
助手 古田嶋智子（東京藝術大学大学院教育研究助手）



(2) 授業及び主たる担当教員

保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位 佐野千絵 連携教授  
修復計画論（前期、木曜1限） 2単位  
北野信彦 連携教授・中山俊介 連携教授・早川典子 連携准教授・朽津信明 連携准教授  
修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位  
北野信彦 連携教授・中山俊介 連携教授・早川典子 連携准教授・朽津信明 連携准教授  
保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位 佐野千絵 連携教授・朽津信明 連携准教授

(3) 文化財保存学演習（2013年6月4日）

題目：「色を測る」  
会場：東京文化財研究所  
担当：朽津信明 連携准教授

(4) 平成26年度修士課程入学試験

（2012年9月18、19日） 合格者1名